

介護職員初任者研修カリキュラム
しんわ福祉サービス介護職員初任者研修通信講座

1 職務の理解 (6 時間)					
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法			
① 多様なサービスと理解	3 時間	《講義内容》 介護保険サービス（居宅・施設）や介護保険外サービスについて講義を行い理解を深める。			
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	《講義内容》 ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅・施設の実際のサービス提供現場の具体的な様子 ・ケアプランから始まるサービス提供までの流れ、チームアプローチ、他職種との連携、地域社会資源との連携等、介護サービスの提供についてイメージを持たせる。 《施設見学》 ・介護老人保健施設しんわ走水荘（横須賀教室） ・介護老人保健施設しんわ走水荘デイケアサービス（横須賀教室） ・しんわ福祉サービス松崎デイサービス（松崎教室）			
合計	6				
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 人権と尊厳を支える介護	5 時間	1 時間	4 時間	3-1~6	《講義内容》 ・人権と尊厳の保持、ICF、QOL、ノーマライゼーション、虐待防止、身体拘束禁止、個人の権利を守る制度について具体的な事例を複数示しながら、講義を行い理解を深める。 《演習内容》 ・身近に感じる偏見や差別について意見を出し合い討議する。 《添削課題出題ポイント》 ・人権と尊厳の保持・QOL・ノーマライゼーション・虐待防止
② 自立に向けた介護	4 時間	0.5 時間	3.5 時間	4-1~6	《講義内容》 ・自立支援・介護予防について、具体的な事例を複数示しながら、講義を行い理解を深める。 《添削課題出題ポイント》 ・自立支援・介護予防
合計	9	1.5	7.5		

3 介護の基本（ 6 時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5 時間	1 時間	0.5 時間	5-1~2	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴 ・介護の専門性 ・介護に関わる職種 <p>具体的な事例を複数示しながら、講義を行い理解を深める。</p> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の理念、専門職の 7 つの条件を読み上げ、体系的な理解を促す <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の専門性・介護に関わる職種
② 介護職の職業倫理	1.5 時間	1 時間	0.5 時間	6-1~2	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理、社会的責任、プライバシーの保護・尊重について、具体的な事例を複数示しながら、講義を行い理解を深める。 <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を基にどのような対応をすべきかグループで意見を出し合い討議する <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理・プライバシー
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5 時間	0.5 時間	1 時間	7-1~3	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全の確保 ・事故予防・安全対策 ・感染対策 <p>講義を行い理解を深める。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全対策・感染対策
④ 介護職の安全	1.5 時間	0.5 時間	1 時間	8-1~3	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の心身の健康管理 ・腰痛予防 ・手洗い・うがいの方法 ・感染症対策 <p>具体的な事例を複数示し、講義を行い理解を深める。</p> <p>《演習内容》</p> <p>講師の指導のもと、腰痛予防体操等を行う。</p> <p>《添削課題出題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の心身の健康管理・腰痛予防
合計	6	3	3		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護保険制度	3時間	1時間	2時間	9- 1~4	《講義内容》 ・介護保険制度の背景及び目的 ・仕組みの基礎的理解 ・制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 講義を行い理解を深める。 《演習内容》 ・介護保険制度、各サービスや地域支援の役割 についてグループに分かれて考えさせる 《添削課題出題ポイント》 ・介護保険制度の背景及び目的・仕組みの基礎 的理解・財源・介護保険給付以外の事業
② 医療との提携とリハビリテ ーション	3時間	時間	3時間	10- 1~6	《添削課題出題ポイント》 ・医行為と介護・リハビリテーション・介護と 看護の連携・施設における医療と福祉の連携
③ 障害者自立支援制度およびそ の他の制度	3時間	0.5時 間	2.5時 間	11- 1~5	《講義内容》 ・障害者自立支援制度の理念 ・個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護 《添削課題出題ポイント》 ・障害者自立支援制度・成年後見制度・日常生 活自立支援事業
9 合計	9	1.5	7.5		

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護におけるコミュニケーション	3時間	1.5時間	1.5時間	12-1~4	《講義内容》 ・コミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法、 ・利用者・家族とのコミュニケーション ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション 《演習内容》 ・事例を基に介護者・利用者・家族の役になりグループによるロールプレイング 《添削課題出題ポイント》 ・介護におけるコミュニケーションの基本、技法・利用者・家族とのコミュニケーション・状況・状態に応じた技術
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	1.5時間	1.5時間	13-1~4	《講義内容》 ・記録における情報の共有化・報告・連絡・相談・コミュニケーションを促す環境 《演習内容》 ・事例を基に記録・報告の作成 《添削課題出題ポイント》 ・記録の意義と目的、種類・報告連絡相談・ケアカンファレンス
合計	6	3	3		
6 老化の理解（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	1.5時間	1.5時間	14-1~4	《講義内容》 ・老年期の発達と心身の変化の特徴 ・心身の機能の変化と日常生活への影響 《演習内容》 ・身体的な老化・心の老化を理解しどんな支援が必要かグループで討議する。 《添削課題出題ポイント》 ・老化の特徴・こころとからだの変化
② 高齢者と健康	3時間	1.5時間	1.5時間	15-1~4	《講義内容》 ・高齢者の疾病と生活上の留意点 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 《演習内容》 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点をまとめ理解を深める 《添削課題出題ポイント》 ・高齢者に多い病気
合計	6	3	3		

7 認知症の理解 (6 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 認知症を取り巻く状況	1 時間	0.5 時 間	0.5 時 間	16- 1~2	《講義内容》 ・認知症ケアの理念 ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点 《添削課題出題ポイント》 ・認知症ケアの理念、視点
② 医学的側面から見た認知症の 基礎と健康管理	1 時間	0.5 時 間	0.5 時 間	17- 1~2	《講義内容》 ・認知症の概念、原因疾病とその病態 ・原因疾患別ケアのポイント、健康管理 《添削課題出題ポイント》 ・認知症の概念・健康管理
③ 認知症に伴うこころとからだ の変化と日常生活	2 時間	1 時間	1 時間	18- 1~3	《講義内容》 ・生活障害、心理・行動の特徴 ・利用者への対応 《演習内容》 ・認知症の利用者への対応、どのようなケア が考えられるかグループでまとめる 《添削課題出題ポイント》 ・認知症の周辺症状・認知症ケアの基本・利 用者への対応
④ 家族への支援	2 時間	1 時間	1 時間	19- 1~3	《講義内容》 ・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減 《演習内容》 ・認知症の高齢者をもつ家族介護者の負担に ついて討議する 《添削課題出題ポイント》 ・家族への支援・介護負担の軽減
合計	6	3	3		

8 障害の理解 (3 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 障害の基礎的理解	1 時間	0.5 時 間	0.5 時 間	20- 1~2	《講義内容》 ・障害の概念と I C F ・障害者福祉の基本理念 《添削課題出題ポイント》 ・ I C F ・身体障害者の定義・障害者福祉の 基本理念
② 障害の医学的側面、生活障 害、心理・行動の特徴、かか わり支援等の基礎知識	1 時間	0.5 時 間	0.5 時 間	21- 1~2	《講義内容》 ・身体障害、知的障害、精神障害 《添削課題出題ポイント》 ・視覚障害・精神障害
③ 家族の心理、かかわり支援の 理解	1 時間	0.5 時 間	0.5 時 間	22- 1~2	《講義内容》 ・家族への支援 《演習内容》 ・事例を基に、障害の理解・受容をどのよう に行うかグループでまとめて発表する 《添削課題出題ポイント》 ・障害受容
合計	3	1.5	1.5		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)						
基本知識の学習	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	① 介護の基本的な考え方	3 時間	1 時間	2 時間	23-1~4	《講義内容》 ・理論に基づく介護 ・法的根拠に基づく介護 《演習内容》 ・「求められる介護福祉士像」について意見を出し合い発表する ・「利用者主体」のよい例、悪い例を、受講者にも意見を求めて具体的に提示する。 《添削課題出題ポイント》 ・介護の基本的な考え方
	② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3.5 時間	1.5 時間	2 時間	24-1~4	《講義内容》 ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・こころの持ち方が行動に与える影響 ・からだの状態がこころに与える影響 《演習内容》 ・生きがい・自己概念について。受講者自身の「自己概念」を発表してもらおう。 《添削課題出題ポイント》 ・老化過程への適応・障害への心理的反応・感情の基礎知識
	③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3.5 時間	1.5 時間	2 時間	25-1~4	《講義内容》 ・人体の各部の名称と働きに関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点 《演習内容》 ・バイタルチェック グループに分かれて講師の指導のもと行う 《添削課題出題ポイント》 ・人体の構造・機能・基礎知識・バイタルサイン
生活支援技術の講義・演習	④ 生活と家事	3 時間	時間	3 時間	26-1~5	《添削課題出題ポイント》 ・家事援助・生活支援・家事と生活支援の理解・
	⑤ 快適な居住環境整備と介護	3 時間	時間	3 時間	27-1~5	《添削課題出題ポイント》 ・快適な居住環境・事故防止に向けた環境整備・住環境整備・住宅改修・福祉用具
	⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	6 時間	時間		《講義内容》 ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ・身支度 ・整容方法 ・洗面の意義・効果 《演習実施方法》 ・衣服着脱、洗面方法等 グループに分かれて行う

⑦ 移動・移乗に関連した ところとからだのしく みと自立に向けた介護	6時間	6時間	時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎知識 ・用具とその活用方法 ・負担の少ない移動・移乗 ・ところとからだの要因の理解と支援方法 <p>《演習実施方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体位交換 ・移動介助（車椅子、歩行器、つえ等使用）、視覚障害者の歩行介助 ・移乗介助（車椅子、ベッド、ポータブルトイレ間の移乗） <p>グループに分かれて講師の指導のもと行う</p>
⑧ 食事に関連したところ とからだのしくみと自 立に向けた介護	6時間	6時間	時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識 ・口腔ケア ・ところとからだの要因の理解と支援方法 <p>《演習実施方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事介助 ・口腔ケア <p>グループに分かれて講師の指導のもと行う</p>
⑨ 入浴、清潔保持に関連 したところとからだの しくみと自立に向けた 介護	6時間	6時間	時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識 ・入浴用具と整容用具の活用方法 ・ところとからだの要因の理解と支援方法 <p>《演習実施方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴介助 ・全身清拭、足浴、洗髪方法 <p>グループに分かれて講師の指導のもと行う</p>
⑩ 排泄に関連したところ とからだのしくみと自 立に向けた介護	6時間	6時間	時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識 ・排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・ところとからだの要因の理解と支援方法 <p>《演習実施方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄介助（おむつ交換） ・ポータブルトイレ、尿器等の使用法 <p>グループに分かれて講師の指導のもと行う</p>
⑪ 睡眠に関連したところ とからだのしくみと自 立に向けた介護	4時間	4時間	時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠環境の整備 ・褥瘡予防 ・ところとからだの要因の理解と支援方法 <p>《演習実施方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドの操作方法 ・ベッドメイキング方法等 <p>グループに分かれて講師の指導のもと行う</p>
⑫ 死にゆく人に関したこ ところとからだのしく みと終末期介護	3時間	3時間	時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ・介護従事者の基本的態度 <p>《演習実施方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師の体験、事例をもとにディスカッションし理解を深める

生活支援技術演習	⑬ 介護過程の基礎的理解	4 時間	《講義内容》 ・介護過程の目的・意義・展開 ・介護過程のチームアプローチ 《演習実施方法》 ・具体的な事例を通し実際にアセスメントと介護計画の立案を行う
	⑭ 総合生活支援技術演習	6 時間	《講義内容》 ・事例による展開 ・事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術課題 ・事例は 2 事例を選択して実施
実習		12 時間	次の組み合わせの中から選択して実施 ①施設実習 12 時間 (6 時間×2 日) ②施設実習 6 時間/通所実習 6 時間 ③施設実習 6 時間/訪問実習 6 時間
	合計	75	
10 振り返り (4 時間)			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	① 振り返り	2 時間	《講義内容》 ・研修を通じて学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点 業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す 学んだこと・継続して学ぶべきことを再確認し理解を深める
	② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2 時間	《講義内容》 ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修について ・キャリアパス 介護現場の職員より体験談、質疑応答をする
	合計	4 時間	
全カリキュラム合計時間			130 時間